北海道木古内町に飛来したソデグロヅルについて

森 口 和 明

北海道函館市新川町6-1, 〒040

A RECORD OF THE SIBERIAN WHITE CRANE *Grus leucogeranus* FOUND IN HOKKAIDO, JAPAN

Kazuaki MORIGUCHI

6-1 Shinkawacho, Hakodate, Hokkaido 040

Summary An individual of the Siberian White Crane was observed at Kikonaicho of Hokkaido from 14 Oct. to 5 Dec. 1977. External characters and adaptive features associated with the feeding habits were mentioned.

日本では数回の記録しかないソデグロヅル *Grus leucogeranus* が1羽、1977年10月14日から12月5日にかけて北海道木古内町大平（渡島半島）の海岸線から約0.8km入った山あいの水田に滞在した。筆者は10月14日13時、渡島支庁から依頼を受けて現地で種の確認を行ない、以降延21回にわたって現地で観察をしたので、その結果を報告する。

形態および大きさ：趾跡測定と写真による判定から、翼長約600、嘴峰長約190、跗蹠約240、内趾約80、中趾106、外趾約80mm。翼を下げ、あるいは開いた時のみ、翼角、初列風切羽、雨覆の黒色部が現れる。初列風切羽は11枚（清棲、1952）であるが、小斑ながら黒色部は次列風切羽数枚にも及ぶ。嘴は褐色で部分的に濃淡がある。顔頭部の裸出部は赤色で、黄褐色の剛毛を生ずる。脚は赤色だが、跗蹠の前縁に暗緑色部がある。

顔頭部の赤色は、赤褐色、淡赤色、さらには赤味がなくなる等、様々に変化する。脚の赤色も多少変化するが、頭部程激しくなく、頭部の変化と必ずしも対応しない。

食 性：次のものを採食しているところを観察した。そのうち、オモダカ属の越冬芽・ドジョウ・ミミズを主に食べた。いずれも土中の生物である。

ドジョウ *Misgurnus anguicaudatus*. C

ミミズ *Lumbricidae* sp.

アキアカネ *Sympetrum frequens*

マルタニシ *Ciangopaludina chinensis malleata*

ケラ *Gryllotalpa africana*

オモダカ属 *Sagittaria* sp.

スギナ属 *Equisetum* sp.

行 動：ほとんど助走せずに飛び立つ。行動範囲は約5km²で、その中心は、発見当時は大平で、後にその南々西約4.7kmの建川に移った。降り立って採食のために歩く範囲は100m²以内であり、土中生物を採食するときは、さらに狭い。水田などの泥湿地で採食するときは、瞬膜を閉じ、嘴から顔部裸出部全部まで土中に突っ込む。や、硬い水田刈跡地では、嘴を半開きにして土を掘る。時に土塊をはさんで取り除いて深さ15~19cmの穴を掘り、オモダカ属、ミミズ等を探り、そばに水があれば洗って食べる。トンボは嘴を突き出して捕える。嘴に水を含んで上に向けて水を飲む。羽づくろいを行なう時は、とくに顔頭の汚れをていねいに落す。羽づくろいが終わると、羽ばたきや、翼や脚を伸ばす動作をし、あくびを何回もして仮眠に入ることが多い。水浴は、水溜りに座って行ない、一浴び毎に羽

づくろいをする。水浴後、羽ばたきをして最後に翼を開いたまま、一瞬停止する行動を繰り返す。

ねぐらと採食場との間の移動の様子は次のとおり。日没前後、採食しながら鳴き始め、さらに2～3分後、採食を全くやめて首を伸し、鳴きながら落ち着きなく歩き回る。次第に声の間隔が短くなり、急に体を低くして助走せずに飛び上り、旋回しながら上昇して、ねぐらへ向かう。最初に声を出したときから飛び立つまでの時間は、6分間。採食をやめるのは、暗くなって食物を探しにくくなるからと思われる。採食場への飛来は、日の出後である。

渡去した12月5日頃までには、4回の積雪があり、表土および水面が凍結を始めたので、採食困難となり渡去したと思われる。12月4日は、気温上昇により、前夜の降雪の雪解水で水浴し、また採食していたが、渡去推定の5日朝は凍結していた。以後、ねぐらであった水田地帯、河川等を調べたが、発見できなかった。

考 察：飛来地の採食場所は泥湿地のある水田であった。前述のとおり、眼の瞬膜をおろして頭部裸出部まで土中に突込む採食行動、頭部の汚れを落す行動は、他の種のツル類には見られないもので、頭部裸出部と関連した適応的な進化を示していると思われる。

引 用 文 献

清棲幸保. 1952. 日本鳥類大図鑑: 225. 講談社, 東京.

Fig. 1. A Siberian White Crane feeding in rice field. Note the beak inserted deeply into mud.

Fig. 2. The same Siberian White Crane as in Fig. 1. Note the face which became black through the feeding.